

文章の論理

科目責任者 菊池昌彦
学年・学期 1学年・3学期

I. 前文

作文技術の向上を通して医療従事者として必要な論理的思考や表現力、コミュニケーション能力を身に着ける。

II. 担当教員

非常勤講師 菊池昌彦

III. 一般学習目標

論理的な文章の展開，段落構成の方法を学ぶ。難しいことを咀嚼し平易な言葉に置き換え，誰もが理解できかつ説得力のある文章作成を目指す。講義を通して会話を含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図る。

IV. 学修の到達目標

解説～作文演習～講評を繰り返し，伝えたいことを確実に文章化できるようにする。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担当者 | アクティブ ラーニング |
|----|----|----|----|----|----------------------------|------|----------------|
| 1 | 10 | 7 | 水 | 4 | プロローグ・「なぜ，論理的で分かりやすい文章なのか」 | 菊池昌彦 | 6 (作文演習) |
| 2 | | 14 | 水 | 4 | 文章の基本1 | 菊池昌彦 | 6 (作文演習) |
| 3 | | 21 | 水 | 4 | 文章の基本2 | 菊池昌彦 | 6 (作文演習) |
| 4 | | 28 | 水 | 4 | 文章の基本3 | 菊池昌彦 | 6 (作文演習) |
| 5 | 11 | 4 | 水 | 4 | 文章の基本4 | 菊池昌彦 | 6 (作文演習) |
| 6 | | 11 | 水 | 4 | 文章の基本5 | 菊池昌彦 | 6 (作文演習) |
| 7 | | 18 | 水 | 4 | 文章の基本6 | 菊池昌彦 | 6 (作文演習) |

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

毎回の作文演習が試験。出席と論理的文章構成の習熟度合を総合して判定。
(評価の割合 = 作文演習→80%，出席・授業態度→20%)

VII. 教科書・参考図書・AV資料

毎回，講義に関するレジユメを配布。Bか2Bの鉛筆，シャープペンシルを用意。推薦書がある場合は講義日に提示。
用字用語は共同通信社編の記者ハンドブックに準拠。

VIII. 質問への対応方法

講義日に対応。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | |
|---|---|
| 医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる | ◎ |
| 能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる | |
| 地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる | ○ |
| 国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる | |
| リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる | |

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは評価したうえで、講義日に評価の理由や改善点などを説明して返却。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：講義前にレジュメを読み、質問事項や疑問点を整理する。

事後学習：講義内容を踏まえて実際に文章を書き、文章作成を習慣化させる。。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。